

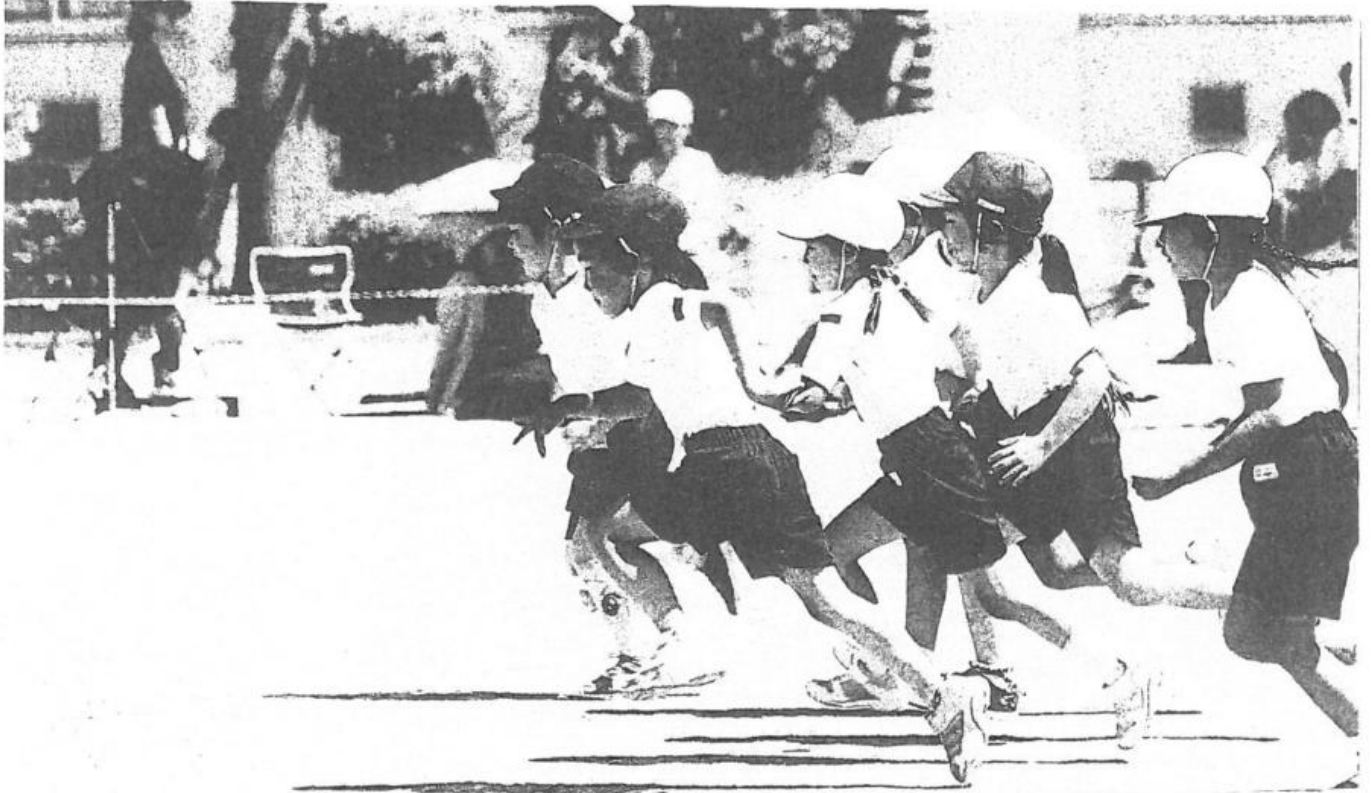
研究所だより

発行所 八王子民主教育研究所

042-628-5200

編集責任者二木・小木・田中

NO347 2020. 6. 18



学校が再開しました。多くの子どもたちは日常の生活が戻ってくることにほっとしていると思います。休校中、週3回孫を預かりました。学校から出された宿題を親と相談して計画を作り、生活リズムを崩さないようにと頑張っていました。それでも、友だちに会うこともできず、遊びにも行けない毎日が続き、5月の終わりごろには、言葉遣いが少し荒くなったり、不機嫌な様子も見せるようになり、ストレスをため込んでいるんだなあと感じました。多くの子どもたちが同じような思いをしながら我慢していたのだと思います。

学校が再開された今、先生たちには子どもたちが抱えた不安やストレスに寄り添う丁寧な指導をお願いしたいと考えます。もちろん、先生方の日常的な忙しさに加え、コロナ対策など、今までとは違う精神的な大変さがあります。先生たちが子どもたちにゆとりをもって迎え合える施策を行政は行う必要があります。

国は学校へのコロナ対策にじゅうぶんな支援を行うべきです。

今週から学校は通常の授業が始まります。先週末まではクラスは2つに分けて20人以下でした。今週からはもとの人数に戻ります。3密を避けるため、学級を少人数にすることを今やるべきです。日本教育学会は小学校3人、中学校3人、高校2人の教員増（合計約10万人）などを提案しています。必要な予算は1兆円です。

10兆円の予備費でできるのです。「9月入学」導入に熱心だった知事さんたちも子どもの生活と学びを守るために、この提案の実現に声をあげてほしいものです。

子どもたちの豊かな学びを支える

より良い教科書の採択を！

く大切にしたいのは、真理・真実・平和と

民主主義個人の尊厳、多様性く

はじめに

コロナウイルスの感染が拡大する中で、安倍首相による全国一律休校「要請」、その後の休校延長、学校再開「オンライン」授業、突然の「九月入学」論議の中で見えてきたことは何でしょうか？それは、学習指導要領と教科書検定、学テ体制による学習内容の統制、「管理と競争」など、これまでの教育政策では立ち向かえないということ、「オンライン」授業は困難が大きく、家庭学習も大変だということ、そして、子どもにとっては、学校でみんなと一緒に勉強することが何より大切だということ。一つの教室に二十人の児童生徒の在籍でゆりのある学習体制の構築とそれに伴う教員の大幅増の実現が喫緊に必要であることも明白となりました。

学習指導要領はあくまでも「大綱的」なものであり、「教育課程」は本来、それぞれの地域と子どもの状況に合わせて、各学校が作るものです。今こそ、子どもたち

から始まる、子どもたちの教育課程づくりを進めましょう。今回の中学校の教科書採択は、こうした状況の中で行われます。

I 今回の教科書検定の特徴

百十五点が申請され、そのうち四点が不合格となりました。合計四七七五件の検定意見書がきましたが、多くの教科書が前回修正させられた箇所は、最初から直して申請していました。

北方領土に関し、検定意見のついたK社（公民）の例をあげると

〈修正前の記述〉

「日本としては、歯舞群島、色丹島、択捉島、国後島の四島の一括返還を求めてきましたが、ロシア側の反応は厳しく、歯舞群島と色丹島の二島の返還に要求を絞って交渉する方針も検討されています。」

〈検定意見〉

生徒が誤解するおそれのある表現である。「二島返還を表明した政府見解や閣議決定はない。」（文科省）

〈修正後の記述〉

「日本としては、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の

一括返還を求めてきましたが、ロシア側の反応は厳しく進展する見通しがなかなか立ちにくい状況が続いています。」

II 新しい教科書の特徴

① 難しく、量が多い

九教科の平均は計一一二八〇ページに上り、前回よりも八四四ページ（七、六％）増加しています。特に増えたのは技術と英語です。技術は「プログラム教育」導入で二十六％増、英語は、小学校での学習を前提に単語数が約二倍（二二〇〇〜二五〇〇語）に増えています。

ある大学教授は「これではたしてどれぐらいの生徒がついてこられるか疑問だ。生徒たちは小学校の英語の教科化で英語が嫌いになった上に、中学校でも立ち直れず、二度つまずきかねない。不安になって塾に行く子が増え経済的に行けない子との間で格差が開きそうだ」と嘆いています。

② 「道徳」はどうなったか？

題材は二年前とほとんど変わっていませんが、二年前と同じく文科省の「私たちの道徳」「中学校道徳読み物資料」からの出典が多くなっています。社会的な背景や

科学的な真実を示さず、決められた枠の中で主人公の心情や行動を考えさせ、子ども自身の判断や行為の変容を迫るものが少なからずあります。これを「考える道徳」というのでしょうか？

T社は、二年前は「権利と義務を考えて」というタイトルでしたが、今回は権利が消えて「義務について考えよう」となりました。N社では「こういう日本人もいた」と、日本の植民地支配を正当化するような題材を掲載しています。

また、毎学期、題材について自己評価させたり、感想(2)を書かせたりして、子どもたちの負担を大きくしている教科書も増えてきています。「心に残った度合いに五段階の自己評価」(A社)「身につけたい二十二の心を四つのレベルで自己評価」(N社)「学期ごとに四段階で取り組みを評価」(G社)

登場

③ またもやあの教科書が社会科「歴史」「公民」に

◎ I社の「歴史」「公民」、J社の「公民」は子どもたちに手渡すことはできません。

I社、J社の教科書の問題点は何なのでしょう。

〈その一〉間違いが多く、使いにくいのです。

「学問の成果が反映されていない」「他の教科書と違う書き方になっていて、とても不安」などの声が多く、教職員や市民の中から上がっています。また、I社は神話に関する特集ページを組んで、歴史的事実のように扱っています。

〈その二〉戦争の真実を伝えていません。

I社は、乃木希典、東郷平八郎を本文で紹介。英雄扱いですが、戦争による民衆の苦難や戦費調達のための増税で生活が困難になったことには触れません。国内においても非戦論と主戦論の対立があったことや与謝野晶子の詩「君死にたもうことなかれ」にも触れていません。

（日露戦争について）

I社は、「朝鮮の領土を他国（ロシア）から守るため」

「日本軍の朝鮮駐留を認める日朝議定書を結んだと記述し、「植民地」とは書いていません。石川啄木の短歌

「朝鮮国に黒々と墨を塗りつつ秋風を聴く」も載せていません。（韓国併合）（南京事件）についてはすべての

社が扱っていますが、I社は女性や子供を含む民間人が多数殺害されたことには触れていません。

（日中戦争について）

I社は日米対決を決定的にしたインドシナ侵攻を軽く扱い、「自存自衛」の戦争と位置づけ「アジア解放の戦争」と説明し、当時の「大東亜戦争」という呼び名をそのまま使っています。そして、アジアの人々の抵抗があったことや民衆の苦難には触れず、「植民地は戦後、次々と独立を勝ち取っていきました」と「日本のおかげ」とも言いたいような記述となっています。

（アジア・太平洋戦争について）

I社は、「沖縄では、日本軍は沖縄県民とともに必死の防戦を展開し、県民も含めた日本側に死者は十八万人、十九万人にもものぼり、その半数以上は一般市民でした。

その中には、中学生や女学生で戦いに従軍して命を落とした人々や戦闘が激しくなる中で逃げ場を失い、集団自決に追い込まれた人々もいました」と記述。あたかも自主的に従軍し、集団自決したような書き方で、日本軍の責任を免罪しています。（沖縄戦、戦争と国民）

〈その三〉「憲法改正」を推進しようとしています。

国民主権の勉強のところ、I社は半分以上が天皇のことに関する記述となっています。主権者として政治に

参加するのは選挙だけではありませんが、そうした記述が少ないです。(国民主権) 「基本的人権の尊重」のページなのに半分は「国民の義務」の記述で、その導入は権利と義務を並べています。しかも、国民に憲法を守る義務があるかのような記述となっています。「公共の福祉」による基本的人権の制限の例が書かれています。I社には「慎重に判断する必要があります」などの記述はありません。(基本的人権の尊重) 「平和主義」と言いながら、自衛隊の写真が並び、各国の憲法における「防衛の義務」を紹介しています。沖縄の基地問題では「日米安保体制は日本の防衛の柱」「アジア太平洋地域の平和と安定に不可欠」の記述となっています。(平和主義)

I社は他社の倍以上の分量で「改正」の論点を取り上げ、改正回数を単純に他国と比較し、改正が必要だと誘導するような書き方をしています。

憲法学習の最後に「憲法のこれから」として、条文と問題点、どのように改正したらよいかをカードに書かせ、グループで話し合った上で発表し合うアクティブラーニングのページとされています。(憲法改正)

(その四) 政府見解の押しつけになっています。

「公民」とは、「自分を国や社会など公の一員として考え、公のために行動できる人のこと」と説明し、「国と社会を支えることのできる『公民』へと成長していきましょう」と呼びかけています。これらは「お国のために役立つ人間」として戦地に赴き死んでいった人々のことを思い出します。

議院内閣制を説明する図で、国民を一番下に置く図は他にもありますが、わざわざ一番上に置いたものは他社にはありません。(公民・国家感)

Ⅲ子どもたちにより良い教科書を手渡すために

展示会に行つて意見を出しましょう。

子どもたちには、学問の成果を反映して真実を伝え、それをもとに考えを深めていかれる教科書、みんなが楽しく学べる教科書を手渡したいものです。

そもそも教科書採択は、子どもたちと一緒に教科書を使う教職員や保護者、市民の意見をもとにして行われるべきではないでしょうか。

記述内容に批判的な意見が集中して、変更された例も

あります。みんなで誘い合って展示会に行き、教科書を手にとって、率直な感想・意見を寄せていきましょう。

(以下の記入例も参考にして下さい)

○教科書採択にあたっては、子どもたちと一緒に教科書を使う先生たちや保護者、市民の意見をしっかりと聞き、それを尊重して選んでください。

○中学校の教科書はページ数が多く、内容も難しそうです。勉強嫌いの子が増えてしまわないか心配です。子どもたちや先生の負担が大きくなるないようにしてください。

○授業の流れや設問が詳しく書かれています。それにしぼられず、先生が目の前の子どもたちにとって最もふさわしいやり方を選んで授業できるようにしてほしいです。

○「道徳」に限らず、子どもの心を評価するのは、やめてほしいです。「〇〇」社など、そのためのページや記入欄がたくさんある教科書は採択しないでください。

○教科書では真理・真実を大切にしてほしいです。

「〇〇」社の教科書は学問の成果が反映されておら

ず、子どもたちに使わせるのは心配です。採択しないでください。

○侵略戦争を肯定し、基本的人権や民主主義をないがしろにして、憲法「改正」をおしつける「〇〇」社「〇〇」社の教科書は、絶対に採択しないでください。

○「〇〇」社の「〇〇」科の内容に問題を感じました。具体的には、「・・・・・・」と書いてください。
(子どもと教科書全国ネットパンフからの転載)

八王子市の教科書展示会場は、二か所です。

教科書センター(富士森公園そば)

五月二十九日(金)～七月一日(水)

十時～十九時(土日は除く)

八王子駅南口総合事務所(サザンスカイタワー4F)

六月十二日(金)～七月一日(水)

十時～十七時(毎日)

教科書採択の教育委員会を傍聴しましょう。

七月二十九日(水)と八月十二日(水)です。

開会は九時三十分 場所は市役所です。